

〔唐〕李隆基 撰

〔唐〕李林甫 注

大唐六典

三秦出版社

出版說明

唐六典，正文備述盛唐職官建制，注文叙其沿革，內容兼及政治經濟文物制度許多方面。署唐玄宗御撰，李林甫等奉敕注，實經張說、張九齡、徐堅、韋述等許多高手，自開元十年起稿，約開元二十六年成書。

唐季傳寫本早已湮沒無聞。據「日本國見在書目錄」可知，該書在中唐時已傳至日本，原書亦不存。

宋刊以下各種版本的傳刻關係，如內田智雄列表所述：

北宋（元豐）本——南宋（紹興）本——明（正德）本——明（嘉靖）本——掃葉山房（清嘉慶）本
近衛（享保）本

廣亞書局（光緒）本

官板（天保）本

今影印之廣池本，乃廣池千九郎訓點，內田智雄補訂，昭和四十八年（一九七三年）刊行本。是在近衛本的基礎上整理的本子。

近衛本是曾任太政大臣和攝政的近衛家熙以明正德本為底本，參校群書勘定的，享保九

年（一七二四年）成書。正德本即王鏊與修「明會典」時，於禁中得見「唐六典」，手錄以歸，為世無刻本，遂于正德二年（一五〇七年）翻刻傳世的本子。

近衛家熙精心整理了嘉靖本、正德本，但他當時未能見到宋刊本，是近衛本的遺憾。北京圖書館藏南宋紹興本六典殘卷，記有卷一至三，卷七至十五，卷二十八至三十，共十五卷。昭和五年（一九三〇年）玉井是博拍照帶回日本，廣池本即據以校補。校勘時還參用了宋孫逢吉撰于元祐中的「職官分紀」所引的六典，並吸取了玉井是博和內藤乾吉的研究成果。

欄內正文，包括雙行夾注，是照錄近衛本的。欄內○△□各種符號是廣池本作校記時標人的。○表示近衛本與宋本一致；△表示近衛本與宋本及職官分紀所引六典不一致；□表示該處宋本有缺或文字漫患難于斷讀；□表示宋本缺頁，欄上并注「宋本落了」；「表示按宋本當提行或顛倒文字。欄內原近衛本闕字脫文右傍的文字，是按宋本或職官分紀補的。大段的缺脫文字另錄在該卷卷末，欄上注參照面碼。

欄上的校記音注，部分采錄自東坊城家（管家）本，其餘則是內田智雄增補的。注文中宋本是宋刊六典殘本的簡稱，分紀指職官分紀所引的六典，欄上及行間的墨書乃廣池千九郎手迹。

影印本僅略去廣池本日文解題和凡例，以適應歷史研究之需，特此說明。

一九九一年三月

大
唐
六
典

大唐六典 目次

卷一	三師・三公・尙書都省……………	七
	三師(七) 三公(九) 尙書都省(尙書令)(一一)	
卷二	尙書吏部……………	二三
	吏部尙書(二三) 司封郎中(三九) 司勳郎中(四二) 考功郎中(四四)	
卷三	尙書戶部……………	五
	戶部尙書(五二) 度支郎中(七一) 金部郎中(七三) 倉部郎中(七五)	
卷四	尙書禮部……………	八
	禮部尙書(八一) 祠部郎中(九六) 膳部郎中(一〇六) 主客郎中(一〇七)	
卷五	尙書兵部……………	一二
	兵部尙書(一二二) 職方郎中(一二五) 駕部郎中(一二六) 庫部郎中(一二八)	

卷六	尙書刑部	一三〇
----	------	-----

刑部尙書(二三)	都官郎中(二四九)	比部郎中(二五一)	司門郎中(二五二)
----------	-----------	-----------	-----------

卷七	尙書工部	一五一
----	------	-----

工部尙書(二五六)	屯田郎中(二六四)	虞部郎中(二六六)	水部郎中(二六七)
-----------	-----------	-----------	-----------

卷八	門下省	一七三
----	-----	-----

門下省(侍中)(二七四)	左散騎常侍(二八〇)	城門郎(二八五)
--------------	------------	----------

符寶郎(二八七)	弘文殿學士(二九三)
----------	------------

卷九	中書省・集賢院・史館・匭使院	一九六
----	----------------	-----

中書省(中書令)(二九七)	右散騎常侍(二〇四)	集賢殿書院(二〇六)
---------------	------------	------------

史館(二〇九)	匭使院(二一〇)
---------	----------

卷十	祕書省	二二三
----	-----	-----

祕書省(監)(二二三)	著作局(二二一)	太史局(二二三)
-------------	----------	----------

卷十一	殿中省	二二九
-----	-----	-----

殿中省(監)(二三一)	尙食局(二三二)	尙藥局(二三三)	尙衣局(二三五)
-------------	----------	----------	----------

卷十二 內官・宮官・內侍省 二五五

尙舍局 (二三八)	尙乘局 (二三九)	尙輦局 (二四二)
-----------	-----------	-----------

內官 (二四八)	宮官 (二五〇)	尙宮局 (二五一)	尙儀局 (二五二)
尙服局 (二五二)	尙食局 (二五五)	尙寢局 (二五六)	尙功局 (二五六)
內侍省(內侍) (二五七)	內謁者 (二六〇)	掖庭局 (二六一)	宮闈局 (二六二)
奚官局 (二六三)	內僕局 (二六三)	內府局 (二六五)	

卷十三 御史臺 二六七

卷十四 太常寺 二七五

太常寺 (二七九)	兩京郊社署 (二八七)	諸陵署 (二八八)	
永康興寧二陵署 (二八九)	諸太子陵署 (二八九)	諸太子廟署 (二八九)	
太樂署 (二八九)	鼓吹署 (二九五)	太醫署 (二九八)	太卜署 (三〇二)
廩犧署 (三〇六)	汾祠署 (三〇七)	兩京齊太公廟署 (三〇七)	

卷十五 光祿寺 二八六

光祿寺 (三一七)	太官署 (三一九)	珍羞署 (三二二)	良醢署 (三三二)
掌醢署 (三三四)			

卷十六 衛尉・宗正寺……………三六

衛尉寺(三二七) 兩京武庫(三二九) 武器署(三三四) 守宮署(三三五)

宗正寺(三三五) 崇玄署(三三七)

卷十七 太僕寺……………三九

太僕寺(三四一) 乘黃署(三四三) 典廐署(三四七) 典牧署(三四八)

車府署(三四九) 上・中・下牧監(三五〇) 沙苑監(三五三)

卷十八 大理・鴻臚寺……………三五

大理寺(三五六) 鴻臚寺(三六〇) 典客署(三六二) 司儀署(三六三)

卷十九 司農寺……………三七

司農寺(三七〇) 上林署(三七三) 太倉署(三七四) 鉤盾署(三七五)

導官署(三七六) 太原・永豐・龍門等諸倉(三七七) 司竹監(三七七)

溫泉湯監(三七八) 京都苑總監・四面監(三七八) 諸屯監(三七九)

九成宮總監(三七九)

卷二十 太府寺……………四〇

卷二十一

國子監

太府寺(三八二) 兩京諸市署(三八四) 平準署(三八六) 左藏署(三八七)
右藏署(三八八) 常平署(三八九)

國子監(三九三) 國子博士(三九五) 太學博士(三九六)

四門博士(三九七) 國子直講(三九八) 律學博士(三九八)

書學博士(三九九) 算學博士(三九九)

卷二十二

少府・軍器監

少府監(四〇四) 中尙署(四〇六) 左尙署(四〇八) 右尙署(四〇八)

織染署(四〇九) 掌冶署(四一一) 諸冶監(四一一)

北都軍器監(四二二) 甲坊署(四二二) 弩坊署(四二二)

諸鑄錢監(四二三) 諸互市監(四二五)

卷二十三

將作・都水監

將作監(四二〇) 左校署(四二三) 右校署(四二四) 中校署(四二四)

甄官署(四二五) 百工・就谷・庫谷・斜谷・太陰・伊陽監(四二六)

都水監(四二六) 舟楫署(四二八) 河渠署(四二八) 諸津(四二九)

卷二十四 諸衛……………四三一

左右衛(四三六) 親府・勳一府・勳二府・翊一府・翊二府等五府(四四〇)

左右驍衛(四四〇) 左右翊中郎將府(四四二)

左右武衛(四四二) 左右翊中郎將府(四四三)

左右威衛(四四三) 左右翊中郎將府(四四四)

左右領軍衛(四四四) 左右翊中郎將府(四四六)

卷二十五 諸衛府……………四四七

左右金吾衛(四五二) 左右翊中郎將府(四五三)

左右監門衛(四五三)

左右千牛衛(四五四)

左右羽林軍衛(四五六) 左右翊中郎將府(四五七)

諸衛折衝都尉府(四五七)

卷二十六 太子三師・三少・詹事府・左右春坊・內官……………四六二

太子三師(四六六) 太子三少(四六七) 太子賓客(四六八)

太子詹事府(四六八) 太子司直(四七〇) 太子左春坊(四七〇)

卷二十七

太子家令・率更・僕寺

- 太子左諭德(四七二) 崇文館(四七二) 司經局(四七三)
- 典膳局(四七四) 藥藏局(四七四) 內直局(四七四) 典設局(四七六)
- 宮門局(四七七) 太子右春坊(四七七) 太子右諭德(四七九)
- 太子通事舍人(四七九) 太子內坊(四八〇) 太子內官(四八〇)
- 太子家令寺(四八五) 食官署(四八六) 典倉署(四八七)
- 司藏署(四八八) 太子率更寺(四八八) 太子僕寺(四九〇)
- 廄牧署(四九一)

四八三

卷二十八

太子左右衛及諸率府

- 太子左右衛率府(四九六) 左右率・親・勳・翊等府(四九八)
- 太子左右司禦率府(四九九) 太子左右清道率府(五〇〇)
- 太子左右監門率府(五〇一) 太子左右內率府(五〇二)

四九三

卷二十九

諸王府・公主邑司

- 親王府(五〇六) 親事府(五一一) 帳內府(五一一) 親王國(五一一)
- 公主邑司(五二三)

五〇四

卷三十 三府・都督・都護・州・縣官吏……………五二四

京兆・河南・太原三府官吏(五二四)

大都督・中都督・下都督府官吏(五二七)

上州・中州・下州官吏(五二〇)

京縣・畿縣・天下諸縣官吏(五二六)

大都護・上都護府官吏(五三一)

鎮・戍・嶽・瀆・關・津官吏(五三三)



集部
字彙作
變美汎海舟

姬周已降、憲度文物之明、設官
分職之備、特以李唐為盛、而
大典乃經眾賢討論、成於開元
全盛之日、一代之制、粲然可見、
我

朝每有遺因、置廢、脩飾理化、

大唐六典 考訂 序

久未嘗不參而徵焉、其書也中
罹亂故、燬燼湮沒、為日既久、而
近更因舛傳、以得之、第得之不
多、行之不廣耳、徒聞而目未親
者、往往是、府內適有一本、不無
刀刀魚魯、予辱鹽梅之日、休沐

必讀之、如有遺脫、必乙其備、今也
拜職處河之湄、冬、互羣籍手加
校、正既而卒業、乃出以授于梓、冀
與公卿大夫、稽古制典、欲以
仰贊

皇猷之萬一者、其焉、若夫律令

大唐六典 考訂 序

格式之為編、或有完而存者、或有
存而缺者、或有全然不傳者、或
日幸得四者之備、以足是書、因
就刊布、則其補乎世、也將何以
哉、予嘗為之措志、而有所俟云、

享保甲辰秋七月

送一位家熙

大唐六典

考訂

序

三

考訂大唐六典凡例

我

前攝政太政大臣殿下篤好是書嘗病其闕脫訛謬似不可為完書志在讎正補修方其訓導燮理機業甚大尚猶披閱不已正德初卜居河瀕燕閒無事迺大加考訂竟自整理全裒三十卷六典庶乎其復唐故然不敢輒改換舊文一分注係之蓋校勘之功經二十寒暑焉乃先

大唐六典考訂凡例

賢所謂精力盡於此書者

殿下以之屬者命書史等分卷謄寫以授剖

剡又命其等紀其事畧并條列凡例如左

一六典原係唐時傳本惜矣近世軼其本見今

所有祇止明正德嘉靖二刻本焉耳今謄寫

文字一從正德本其嘉靖者謂之一本

一本文大其字畫注文差小下一字以別之比

之舊本洒然改觀

一考訂之文分注字下或句下所要彼此分明不相淆雜

一本文注稱曰經乃所謂法以周官者為每卷目錄舉諸官官屬人數亦其義也今考訂自目錄始覽者不當以他書目錄視之

一本文注文並以諸書考訂又各有合照三師三公已下諸官負品與舊新唐書百官負品及通典大唐官品合照歷代官品因革與諸

大唐六典考訂凡例

史百官志及通典歷代官品合照職掌與二

唐書百官職掌及太平御覽職官部六典職掌合照但職掌注文並隨文雙校頗勞檢尋

凡諸書引六典者係職官者一切關涉攷証旁搜廣求雖出近世之書在所不棄

一本文注文所引諸書之文經傳已下書別攷證其書無傳者若荀綽百官表宋百官階次齊職儀梁選簿之類並據他書所引之文如

十道河南開河
河南開河
河南開河
河南開河
河南開河
河南開河
河南開河
河南開河
河南開河
河南開河

據與據司

律令格式今獨有焉傳故唐律疏議耳其令

格式然僅止諸書所引唯

本朝令式間有與六典交涉者今並據之

一戶部條十道貢賦物產白氏詩曰城云臣按

六典書任土貢有不貢無者是也除唐書地

理志及通典州郡貢稅資其參照外唯通志

地理畧全舉六典之文禮部條祥瑞名物通

鑑注引儀制令及唐書玉海所載皆僅十二

大唐六典考訂凡例

三唯延喜治部式之文與六典大同蓋即唐

舊文今刪補釐正並一從之凡貢賦品目四

瑞名物炳如丹青庶見大全

一凡異同與一本涉兩是者舉之二本是者舉

之凡諸書涉異同者並皆舉之例自見分注

一凡誤文謔字並皆校訂分注曰據某書某當

作某某幾字當作某某幾字其諸書班班多出

不須據文者不論有無據文一見即知是某

避唐諱
正讀避也

其補文云云
下正文
三字者
如卷六文
四十四枚
誤歟

文字之誤者雖知是某謔而作他字亦通者

因義依例斷無兩疑者並皆曰某當作某某

當作某某或某字或加恐字疑字凡其出處義

相乖違者直舉出處之文使覽者自擇大抵

逐文注字不必拘一例

一凡衍文衍字例自見分注

一凡疑文及未考出者例自見分注

一凡文字闕滅處做舊本作一方筐中署闕滅

大唐六典考訂凡例

幾字筐下分注填入亦各舉所據

一凡闕文脫文隨處補入其脫一字二字至十

數字者並逐次分注填入其補文別起一段

擬本文者下正文三字注文者下四字其脫

條者各立條如正文例凡其所據諸書並舉

其全文不敢以意加損一字

一凡考訂所舉諸史百官志及天文地理禮樂

輿服經籍食貨刑法釋老等志分注並不出

名目概曰某志

一凡考訂之餘或可以備參校異同者隨闕覽所得載諸各卷之後嘗記冊府元龜有准六典及禮部式諸文武赴朝諸府導從之文今檢六典不見其文而舊唐志禮部郎中負外郎條載諸府導從之文據所謂准六典者似是舊唐志者六典本文冊府元龜者六典注文疑禮部郎中負外郎條中脫之今載二書

大唐六典

考訂

凡例

五

之文於禮部卷末並署曰補考